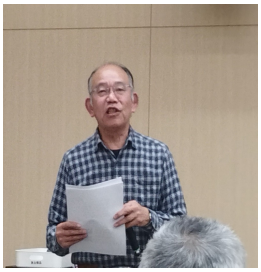
鹿児島県護憲平和フォーラム情報

NO―177　　2025 年 4 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム　Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5－7　TEL　099-252-8585　FAX099-258-4560

「120 年前の日本に凄いやつらがいた」

代表　下馬場学



表題は映画『草の乱』のポスターの宣伝文句。20 年前に作られた秩父事件を題材にした映画である。恥ずかしいながらその映画の存在を知らなかった。今から言えば「140 年前に」となるか？秩父事件は 1884 年（明治 17 年）に悪徳金貸や政府の悪政を批判し、貧民の救済を訴えて埼玉県秩父地方で起こった日本近代史上最大の農民蜂起である。

話は変わるが、わたしの友人がさつま町議選への出馬を決意した。投開票へまで 1 ヶ月を切ったあまりにも突然の決意であった。さつま町への弾薬庫建設計画に中心的に関わってきた人である。一部の人たちだけで防衛省への要請行動を行い、国も絶好の好機とばかりに候補地に選び、２年間の調査機関の途中でありながら、来年度予算に設計費を計上するなど、住民を全く軽視した行為を行っている。永年、教職員として子どもたちと「差別のない平和な社会」を目指し来た自分が、このままこの蛮行を許していいのかの思いからの強い決意であった。馬毛島そして辺野古おいても、権力は国民の思いに全く目を向けない構図がここでも繰り返されている。

秩父事件において、蜂起した農民たちは何回も政府に要求を出すが歯牙にもかけられず、時の内務卿・山形有朋は「国民が困窮しているかといって減税を軍国化が遅れると、日本の国は一流国になれない（ダイジェスト版・薄ら覚え・このような意味）」と嘯きながら農民を弾圧する権力への抵抗であった。国民が物価高･低賃金にあえいでいるとき５年間で 43 兆円の軍事費、トランプ大統領に「より一層」と３％を予想させる・約束する首相。今の日本の状況と酷似している。

秩父事件では、1 年間で倍になるような「高利貸」の返済を長期化できるよう政府としての対応を求める経済面での闘いと同時に、「現政府ヲ転覆シ直チ二国会ヲ開ク革命ノ案ナリ」と真っ当な国会開設を求める民主主義の闘いでもあった。

与党の過半数割れによって、与党は野党との協議に応じようとしている状況が今あるが、「閣議決定」を繰り返し、国会を軽視してきた自公政権、国会議員と金の問題が政治の大きな課題でありながらも、商品券を配る首相。友人の英断に対しエールを送ると共に、社会の主人公として民主主義を守る者として、今自分に何が出来るか、何をしなければならないかを自問したい。

さよなら原発 3.11 かごしまアクション　　スローガン～「安全な電気がいいネ!」

東日本大震災に伴う福島第一原発事故から 14 年迎えるのを前に、川内原発の稼働に反対する市民グループによる「さよなら原発 3.11 かごしまアクション」が 3 月 8 日(土)午後鹿児島中央駅前広場で小雨の中、400 人余が参加して開催されました。集会の冒頭「1 分間の黙とう」が捧げられました。

主催者を代表して平井一臣さん(3.11 実行委員会共同代表)は、「福島事故から 14 年が経ちました。つい先日、福島原発事故の刑事裁判による判決が出されましたが、だれも責任を問わないという内容です。今でも避難者や苦しみを負っている多くの人がいることを知ってほしい。政府の政策で一番間違った方向に向かっているのが原発です。今こそダメなものはダメと突きつける闘いをやっていきましょう!」と。

基調提案は長野誠さん(3.11 実行委員会事務局長)が自身の体験を語りつつ「帰宅困難者となる。東京のど真ん中で食料が無くなることを経験した」、当時、国の政策は「可能な限り、原発は低減させる」としていたが、第 7 次エネルギー基本計画では「優れた技術・安全性そして安定的な料金で原発の最大限の活用を図っていく」とまとめているが、九州電力は 2018 年から太陽光発電・風力発電を全国に先がけてそれを捨てる政策をとっています。原発のコストは自然エネルギーの 2 倍近くのコストがかかっていることが報告されています。こんな政策を許してはなりません。

川内原発の使用済み核燃料の最終処分のメドもたたず、保管プールはあと 200 トンほどで満杯、6 年程度が保管の限界。九電の社長はリプレースも検討していることを語っています。

続いて、県内各地で「反原発」運動を闘っている皆さんからの報告。

① 鹿児島からは柿元聡美さん　②鹿屋からは松下徳二さん　③日置からは西薗典子さん　④川内からは鳥原良子さん　⑤いちき串木野からは江藤卓朗さん　⑥指宿からは榊繁さん

この後、特別報告 2 件あり、一つは「環境問題とエネルギーの現状について」及川斉志さん、次に「原発なくそう! 九州川内訴訟弁護団」森雅美・弁護団長から、2 月 21 日鹿児島地裁の『請求棄却の判決』にふれ、地裁が「地震や火山の影響について具体的危険性があるとは認められない」としたことなど、科学者等の知見をも無視した内容に怒りを覚えるとし、控訴したことが報告されました。

集会には熊本、宮崎からの連帯のあいさつ、最後に集会アピールを全体の拍手で採択しました。。

参加者はこの後、会場から電車通りを高見馬場～天文館～山形屋先までパレードで「原発はいらない、フクシマを忘れない、川内原発さようなら」などとアピールしながら行進しました。(集会の中でカンパの呼びかけがありました。当日集まった 126,223 円は今後の活動資金に活用との報告。)

九州電力川内原発差し止め訴訟判決に思う

2025 年 2 月 21 日、「川内原発差し止め訴訟判決」が鹿児島地裁でありました。13 年間も戦いしてきた原告団・弁護団・支援者の戦いには尊敬の言葉しかありません。傍聴の私は法廷に入り裁判官の判決を直接聞くことができました。

肉声が聞こえる範囲の原告団席・被告席は別として、裁判長の言葉は傍聴席にはほとんど聞き取れませんでした。マイクはありましたが、無視されたようです。

裁判官には責任をもって（自分が判断した判決）を丁寧に国民に伝えるという責任ある姿勢が全く感じられませんでした。１０数分間で判決言い渡しを終えた裁判官の退廷する背に向けて（恥知らず）と鋭い怒りの一言が飛んだのは、差し止めを求めた傍聴者全員の当然の思いだったと言えます。

判決は完全に国・九電の姿勢に寄りそう不誠実極まる内容でした。原告団が求めた「地震の危険・火山のリスク・避難計画の不備」「水蒸気爆発のおそれ」などはほとんど無視されました。【重大事故は起こらないから避難計画等必要ない】と言わんばかりでした。何と言う判決でしょう。14 年前の福島原発事故ではいまだに故郷に帰れない人もいると言うのに。

判決を下した裁判官は（裁判を通じて国民を守るという）責任感が希薄（か、全く持ち合わせていない）なんだと思った。一たび原発事故が起これば南九州は生物が住めなくなるという想像すら出来ないのかと怒りが沸きあがりました。

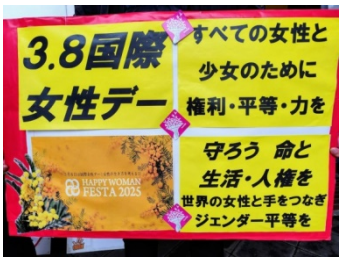
判決後行われた集会で弁護団は「卑怯、不誠実ですべての課題から逃げている判決だ」と断罪し、「不当判決」に参加者全員の批判が渦巻いた報告集会となったのは当然の事でした。

市民が一番求めている安全性確保に警鐘すら鳴らしていません。考えたくもないが実際【その日】が来た時、誰がどのように責任をとるのでしょうか。驚くべき苦難を国民が強いられても、おそらく誰一人責任はとらないのでしょう。

「戦いは続く」と決意した原告団・弁護団・支える市民は素晴らしいの一言に尽きます。

東アジア反差別平和研究会　　山口武文（２０２５年２月２２日）

国際女性デー　街頭行動で「格差是正」などを訴え



国際女性デーの 3 月 8 日（土）11 時から、天文館日赤献血センター前において、護憲フォーラム加盟の「アイ女性会議」等が呼びかけた街頭行動が実施されました。ミモザの花を道行く人々に配布しながら、女性差別撤廃条約の批准、選択的夫婦別姓の実現、男女雇用機会均等法の一層の充実、県警不祥事の隠蔽や性暴力軽視の体質への批判などを訴えました。当日は、鹿児島県護憲平和フォーラムも手製のプラカードを作成し（上記写真左）行動に参加しました。

忘れないフクシマ！　さよなら原発　　奄美集会

『２０１１年の東日本大震災によるフクシマ原発事故で今でも苦しんでいる多くの人々がいます。地震の多い日本にとって原発はとても危険であり、ミサイルが原発を１基攻撃するだけで日本中がパニックになるといわれています。明るい未来を創るためには、原発に頼らない安全で持続可能な自然エネルギー等の再生可能エネルギーをもっともっと推進していきましょう。』の文言入りの「チラシ」を作成し、地元紙「南海日日新聞」「奄美新聞」に集会の告知をしていただきました。労組組合員だけでなく、広く市民の参加を呼びかけました。

集会は３・１１日（火）１７；３０から１８：１５まで、奄美市内で一番夕方の交通量の多い永田橋交差点近くの大きな歩道上で行いました。

まず、開会のあいさつは、実行委員会・事務局が行いました。「奄美では、火力発電の恩恵をうけて暮らしを立てているが、国は、東日本震災の原発被災を顧みることなく、原発推進政策に舵を切っている。南西諸島での軍事衝突が喧伝される中、奄美からも軍事面での原発推進の危険性を訴えよう」と、集会の開会を告げました。その後５人の方々がリレートークしました。「福島原発事故により、今だ２７，６１５人（２月１日現在）が過酷な避難生活を強いられている。また、３８０人を超す子どもたちが甲状腺がんに苦しんでいる。」「核燃料デブリ０，７ｇをようやく除去、終息の見通せない現在進行形の原発事故だ。」「能登半島地震では、震源地近くの志賀原発でオイル漏れがあった。震源地で、珠洲原発が立地していたら大惨事だったのでは？」「地震国の原発は全て廃炉に！！」「核・原発と人類は共存できない。」等、各自が　訴えました。

最後に集会アピール文『将来は、自然エネルギーの地産地消の体制確立をめざしながら、政府の原発推進政策の撤回を求めていきます。』を集会参加者２５名全員の拍手で、採択しました。

5・3 憲法記念日集会

鹿児島ブロック主催（県護憲共催）

講 演 ●飯島 滋明（イイジマ シゲアキ ）さん
名古屋学院大学教授（憲法学・平和学）
●キャサリーン・ジェーン・フィシャー
草の根人権活動家賞を受賞した著作家

テーマ 「憲法と相いれない日米地位協定の改定を（仮題）」

日 時 2025 年 5 月 3 日（火･祝）10:00～12:00

場 所 鹿児島県民交流センター・大 2 研修室